国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

グリーンインフラ
自然と共に創る社会インフラ

令和５年１月19日
総合政策局環境政策課

第3回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」を決定しました

グリーンインフラ官民連携プラットフォームでは、第３回グリーンインフラ大賞について、全国から応募のあった41件の取組事例の中から、会員の皆様の投票等により各部門において合計４件の「国土交通大臣賞」を決定しました。
表彰式は、グリーンインフラ産業展２０２３（令和５年２月１日開催）において実施する予定です。

○第３回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」

防災・減災部門

石巻市北上町「平地の杜づくり」
～被災した集落跡地を心地よい場所へ蘇らせる挑戦～

【受賞者】（一社）ウィーアーワン北上、
平地の杜 長塩谷（ながしおや）地区住民の会、宮城県石巻市

【概要】東日本大震災による津波に流され、震災復興事業「防災集団移転促進事業」により発生した集落跡地を再生するため、人々が関わり続ける体制を構築するとともに、防潮堤に遮られた海岸低平地の貯水力の向上等により、土砂災害等の水害対策に寄与する杜づくりを実施。

生活空間部門

小田急線上部利用施設等のグリーンインフラの取組み

【受賞者】東京都世田谷区

【概要】小田急小田原線の地下化により新たに生まれた線路跡地（延長約1.7km）に、３駅間と街を繋ぐみどり豊かな通路や広場などを整備し、連続した緑の空間を創出。透水機能をもった通路の舗装やみどりの連なりは雨水を浸透し、下水道への負担を軽減させ、地下水の涵養に寄与するとともに、良好な生活環境の形成にも貢献。

都市空間部門

品川シーズンテラス ノースガーデンとサウスガーデン

【受賞者】NTT都市開発(株)、大成建設(株)一級建築士事務所、(株)NTTファシリティーズ、品川シーズンテラス(株)

【概要】芝浦水再生センターの再整備にあわせて、建物の北側の既存下水道施設上に人工地盤を構築し、3.5ha に及ぶ広大な緑のオープンスペースを創出。樹木による緑陰の形成や水景施設、壁面緑化などにより、都市の「クールオアシス」を創出。東京湾から都心に向かう風の道を確保し、ヒートアイランドを緩和。

生態系保全部門

市民も干潟も守る、鹿島の持続可能なグリーンインフラ

【受賞者】鹿島市ラムサール条約推進協議会
佐賀県鹿島市

【 概 要 】流域で一体的な生態系の保全と防災を両立する取組を推進するため、企業のグリーンインフラ等の地域環境課題の解決に寄与する取組・事業を行政が支援し、市全体で解決を目指すプラットフォームを構築。地元の酒蔵と棚田や水田の米を活用した日本酒の製造や販売の支援など、地域の自然資源を活用した持続可能なグリーンインフラ事業を展開。

※各受賞事例の詳細（ポスター・紹介動画）については、下記サイトからご覧いただけます。
【グリーンインフラ官民連携プラットフォームサイト（グリーンインフラ取組事例、技術・手法の募集）】
https://gi-platform.com/join_activity/example/#practicalExample （外部リンク）

○表彰式

表彰式は、グリーンインフラ産業展２０２３において実施する予定です。
【日時】令和５年２月１日(水) 午前（予定）
【場所】東京ビックサイト　南１・２ホール

グリーンインフラ産業展２０２３の詳細については、下記サイトをご確認ください。
【グリーンインフラ産業展２０２３　特設サイト】（外部リンク）
https://biz.nikkan.co.jp/eve/green-infra/special/

○取材方法

表彰式を含め、グリーンインフラ産業展２０２３開催期間中（令和５年２月１～３日）は、現地での取材が可能となっております。報道関係者で取材を希望される方は、下記 URL より１月 27 日までに申込みをお願いいたします。
【グリーンインフラ産業展２０２３　取材申込みフォーム】（外部リンク）
https://biz.nikkan.co.jp/form/eve/spring/press/

〈問い合わせ先〉
国土交通省総合政策局環境政策課　担当：和田、増田、末原
TEL：03-5253-8111（内線 24331、24334）、03-5253-8262（直通）

石巻市北上町「平地の杜づくり」～被災した集落跡地を心地よい場所へ蘇らせる挑戦～

取組の位置

地域課題・目的

【地域課題】

❶東日本大震災からの復興に伴う「防災集団移転促進事業」により、安全安心な住まい確保のため高台へ移転したことから、先祖代々住んでいた集落跡地（移転元地）が発生した。

❷移転元地は、住まいが無くなったことにより、原野に返ることも無く、荒れ果てた手つかずの土地となってしまっている。

【目的】

①荒廃した集落跡地を「美しく心地よい」愛着を感じる場へと取り戻していく。

②時間が止まったかの様なこの場所を人々の集いや関りを誘う横のつながりとして育み、過去と未来という縦のつながり“生命のつながり”を守る場所として再生していく。

③平地の杜づくりを通して、人々が関わり続ける環境づくりを行う事により、隣接した山林の保護や、防潮堤により海と遮られた平地の環境改善に繋げ、今後の防災、減災対策に繋げていく。

取組内容

①集落跡地という、木の生育・成長に適さない場所で、杜づくりを実践。

1）藪払い…鬱蒼と生い茂るヤブを高狩り

2）水と空気の流れの確保

…乾燥した大地に貯水力や浄化力を浸透

3）小さな杜づくり…木が育っていく環境の整備

②未来を一緒に作る仲間づくり。

1）ワークショップの開催

2）体験学習ツアー等の実施

3）サポート協賛会員の募集

③プロジェクトの継続性担保に向けた地域の緑を育む・活用する事業。

1）広葉樹育苗や有機資材の製造事業

2）廃棄資源の再活用（河川域刈り草等）

3）エコテリア等の施工

取組効果

●杜づくりを通した地域交流

→日々の暮らしの中で同じ場所、同じものを見て、感じて、笑い合える関係性を、地域住民を始めとする関係者の間で構築することが出来た。

●サステナブルな資源の活用

→本来、廃棄される運命にあった枝そでや落ち葉、北上川下流域からでる刈り草などを有機物として再利用したり、家庭で育てることが出来なくなった園芸種の苗木や花などをアップサイクルし育て、自然に預け直す等、ＳＤＧｓの達成に貢献している。

工夫した点

①3つの『できる』をコンセプトに、ナレッジの蓄積と再現性を構築

・だれでもできる
・あるものでできる
・自立できる

⇒今後の日本社会に必要な価値を生み出す。

②5つの視点を大切にプロジェクトを推進

・地域性…この地域らしさ
・還元性…何かの、誰かのためになること
・開放性…誰もが参加でき、享受できる
・伝承性…伝えていくこと
・持続性…長続きさせる、出来ること

⇒この街の未来を人と緑の力で描いていく。

③持続可能な「杜づくり」

震災の影響により集落単位での高齢化、独居化は一層進展しており、移転元地も広大、かつ、インフラ整備には多額の投資が必要なことから、無理のない範囲で自主的に関われる体制づくりを行っている。

今後期待される効果

①エリア価値の向上

・地域の植生を活かし集落跡地と周辺の自然環境の調和により、今後の環境整備の向上に寄与する。

・集落跡地を逆転的開発と言える「杜づくり」により、人の手を借りなくても天然更新されていく持続性ある里山として再生を目指す。

・さらに、景観の向上による人が近寄りづらい環境の解消は、防犯、治安の向上にも繋がる。

②防災、減災への対応

・「杜づくり」を実施しているエリアは、後背に山を抱えているものの、手入れが充分になされていない。「杜づくり」による、里山としての再生は、防潮堤に遮られた海岸低平地の貯水力等の向上による、水害対策や治山的な役割が期待される。

・また、大型哺乳類の出現や侵入といった野生動物との軋轢を解消させる。

③横展開の可能性

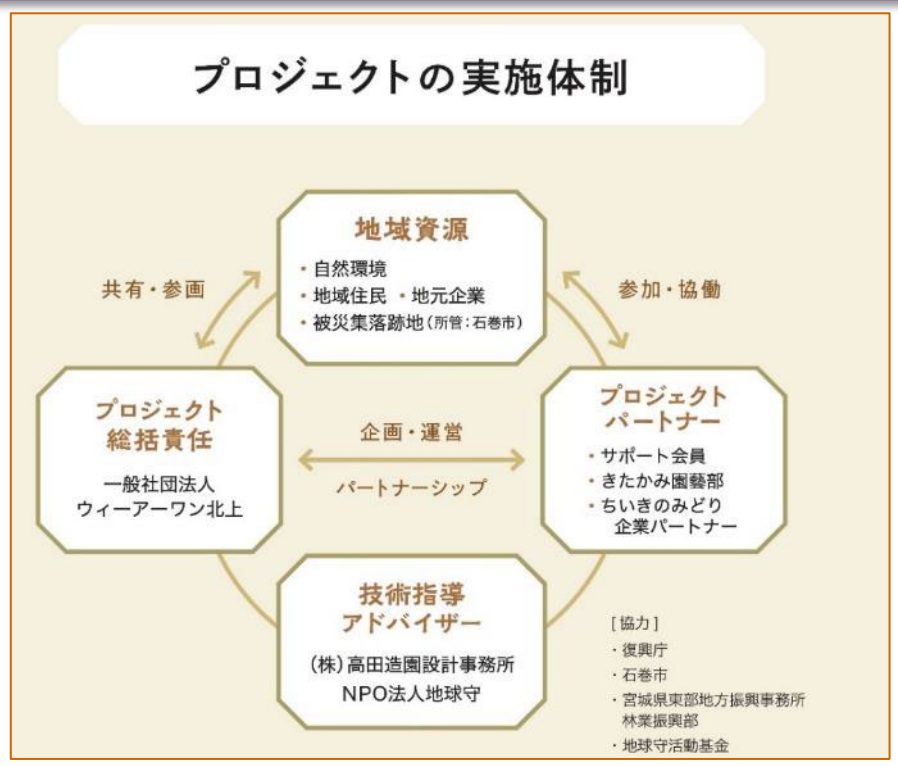
石巻市では「防災集団移転促進事業」によって約165haの移転元地を買い上げており、そのうち約100ha程度について今後の活用見込みが立っておらず、今回プロジェクトを進めている土地の様に荒廃する可能性が高い。今後、「杜づくり」の平準化や、事業確実性の担保により、同じ悩みを抱える他地区への展開が見込まれる。

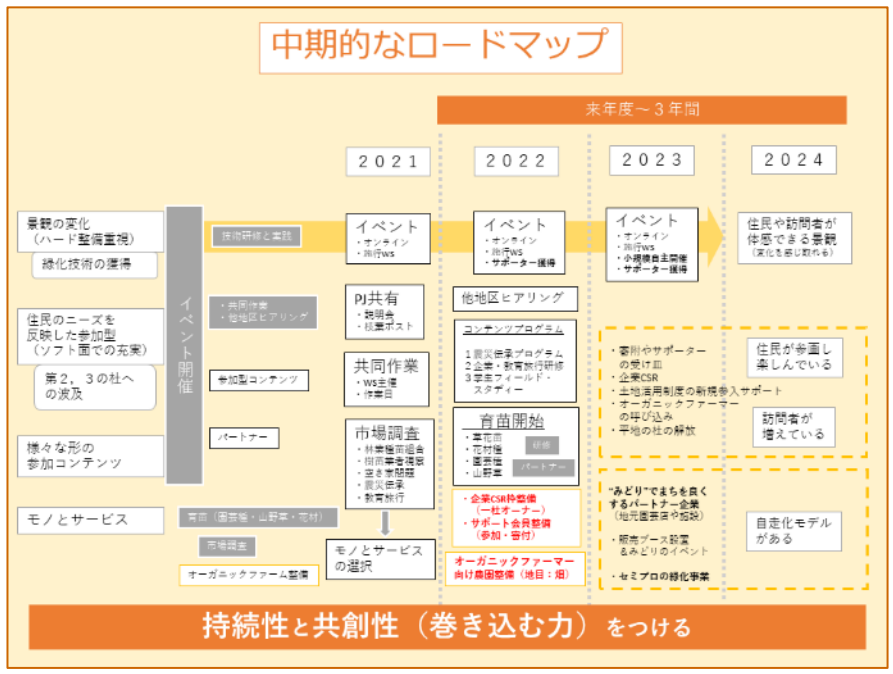
今後の展望

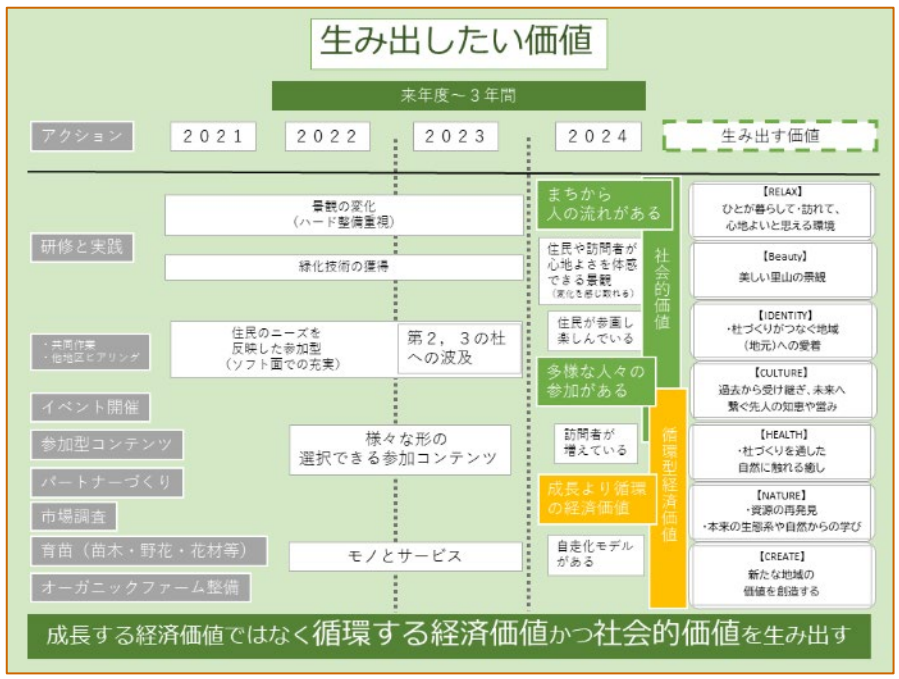
①木々の枝葉越しに日差しが点々と差し込み、風が穏やかに流れ、適度な湿度が保たれた健全な環境を海岸沿いの低平地に取り戻すため、施工エリアや他集落跡地へも取り組みを拡大。

②その環境を、私たち人間と全ての生き物たちが訪れて享受できる、そんな心地よい場所を、未来へ、子供たちへつないでいく。

③東日本大震災からの復興から学んだ“「復興のおわり」のはじまり”を「平地の杜づくり」を通して日本全国に発信する。







ワークショップでの地域住民との交流

多世代の杜づくりへの参加

美しく心地よい場の回復